

タイトル: 「やりたい!」「楽しい!」がいっぱい	1歳児	保育環境アイデア部門
--------------------------	-----	------------



★普段、子どもたちが遊んでいる様子を保護者に見ていただけるよう、ドキュメンテーションを作成しました。子どもたちのつぶやきと一緒に、保育者が大切にしていることや環境設定のポイントも記入し、保護者に保育を理解して頂けるように工夫しました。

<保護者コメントより>

『自分より友だちを見て「〇〇くん、遊んでる!」といっぱい友だちの紹介をしてくれました。みんな好きな遊びをのびのびしていてかわいかったです。』

タイトル: 朝の活動	3~6歳児	保育環境アイデア部門
------------	-------	------------

朝の活動 4学年合同
「増える鬼ごっこ」

初めは年長児だけで、朝の体操後に学習前の発散で始めた。




いつからか他学年もやりたーい

年齢差による身体の動きの差
視野の差
その他諸々
ちょっと心配...

夢中になると気をつけるが難しい...? でも、やってみよう!

遊具の向こう側には逃げないなど、ルールをみんなで考えてから

小さい子には優しくつかまえてタッチしてね♡

鬼になるおともだちは帽子を脱いでカウントする
10・9・8・7・6・5・4・3・2・1・GO!

どの学年の子も嬉しそうに走り回ります

全員が鬼の番
全員が逃げる番
次は誰かな?
ワクワク(へへ)

この活動から、満3才で入園したばかりの子も泣いてくるのが無くなったたり、凸凹のある子どもたちも自らすすんで走れるようになったり、どの子もひとりひとりが様々な成長や個性が見えてくるようになりました。



今では体操後のマラソンが終わると、保育者の声掛けがなくても、年少組さんもササーッとテラスに並んで座り鬼ごっこのリクエストです。
飽きることなく、今日は鬼ごっこしないよーなんて言えない空気が毎日漂っています。

タイトル:お知らせボックス

4歳児

保育環境アイデア部門



おはなしタイムになると「お知らせボックス」に入れた作品などを見せ合って「いいね～」というサインを送りあうのが子どもたちの毎日の楽しみです。いつの間にか昼の時間の名前も「お知らせタイム」になり、自分たちで椅子を置き、話を進めるようになってきました。最初は箱の中の好きなところに作品を置いていましたが、発表の順番をめくり「番号がある方が分かりやすい」という声が上がったため、ボックスに数字を入れました。その結果、支援の必要な子どもたちも「もう少しで自分の番がくる」ことを楽しみにして、一緒におはなしタイムに参加できるようになってきました。

このボックスの影響で、つくったものだけではなく、心が動いた出来事や自信がついたことも「お知らせするわ」と表現するようになりました。

タイトル:ゆったりまったりゆうゆうタイム♪

2~5歳児

保育環境アイデア部門

朝と夕方の時間に過ごす多目的室。玩具の種類は30種類以上ですが、いつも種類別に整えています。一人でじっくり楽しみたい遊び、友だちと一緒に楽しみたい遊び、季節ならではの遊びもしており、誰もが好きな遊びを見つけられる場所になるように工夫しています。また、日々のクラスでの活動や遊びとは違った玩具を用意することにより、長時間園で過ごす子どもたちが飽きることなく過ごしています。

「物を大切にすること」を意識した環境も整えています。マフラーづくりのバックは紙袋でつくり、お絵描きの紙はカレンダーや広告の裏を利用するなど、資源を大切にすることを園ならではの保育室となっています。



季節ならではの遊び



いつもきれいに片づけられていることで物を大切に、が習慣に♡



キャップの向きを上にする事で閉め忘れ防止になるよ



夏場は特に手洗い場のマットが必要になることも園。家庭で使わなくなったシーツを再利用してマットをつくりました。保育者が鍵針編みでつくったマットは吸水性抜群!!ずれにくいと各クラスでも評判となっています。



ペットボトルに色水が入っていたことから、色水づくりを楽しんでいた子どもたち。

環境構成

混ぜたら、紫になったて。



色をつくるのが楽しいのかな?

じっくりと色水づくりが試せる場の保障をする。

この色に近いね。



どうしたら、この色できるんやろ。

色見本を用意して貼った。

発見したことを描ける紙を準備する。



できた色水を置ける棚を準備する。

完成したペットボトルを色別に置けるように、表記した。

色水だけでなく、様々なことを調べられるように、遊びに必要な道具(ピンセット、ケース、電灯、虫眼鏡など)を用意した。



色を混ぜることで色が変化することを発見し、分かったことを紙に描いて、全部の色をつくり上げた。調べるのが楽しくなり、色々なことを研究する遊びへと広がり、ほし組研究所ごっこ遊びを楽しんでいる。